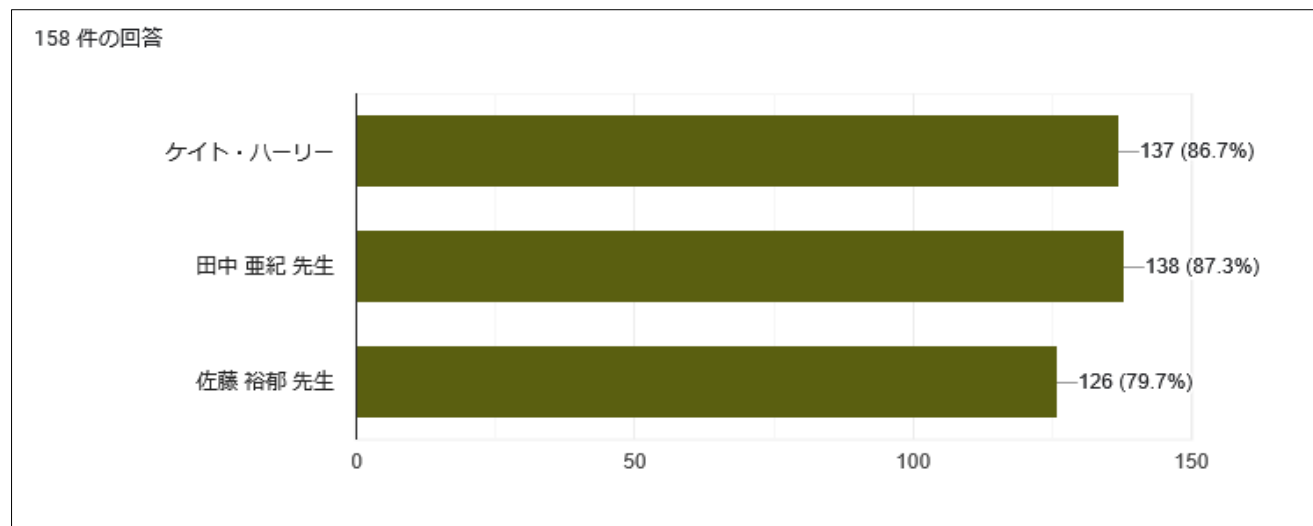
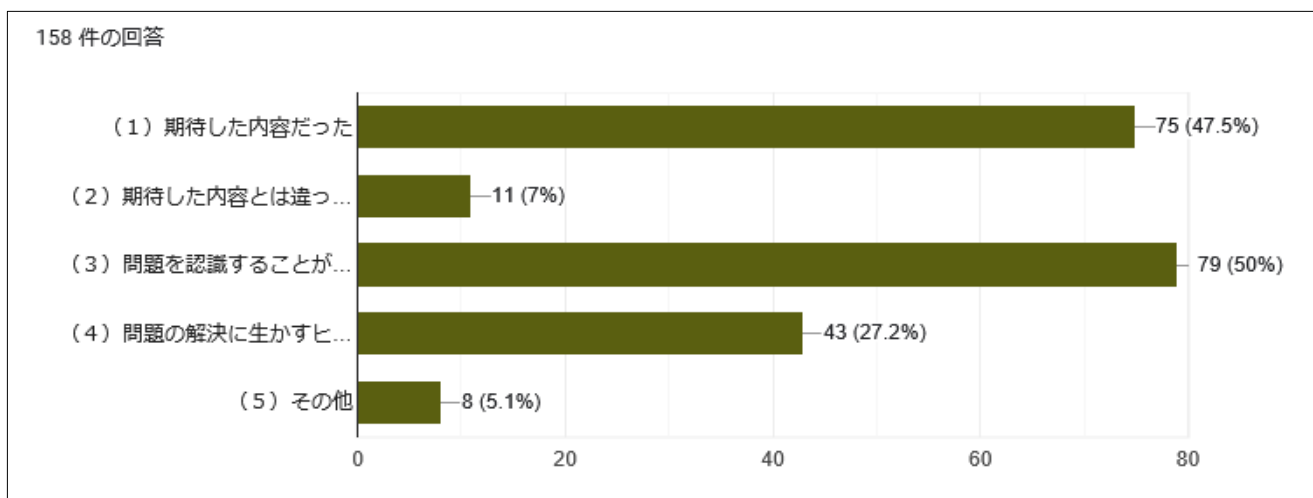


# 岡山理科大学 獣医学部 国際獣医教育研究センター主催 第7回 国際シンポジウム アンケート集計結果

質問1. 視聴された講演動画の講演者をお答えください。(複数回答可)



質問2. 視聴された講演の内容はいかがでしたか。(複数回答可)



質問3. 質問2の回答内容を具体的にお答えください。

- 1 殺処分や施設についてよく知ることができた。
- 2 殺処分ゼロよりも動物福祉の向上を考えることが大切であると知った。(田中先生)
- 3 地域猫を処分しても数は減らずむしろ若い個体が繁殖すること。TNRにより地域猫環境を結果的に改善できることを知れた。(ケイト先生)
- 4 ケイトハーリーさんの講演が思い出がありました。とてもためになる講演でした。

- 5 濃い内容で考えさせられることが多かった。
- 6 歴史や時代背景に沿っての講釈は、聞き応えがあった。
- 7 神奈川県が多頭飼育崩壊を減らす対策として行政が届出制を設定するなど、SNSを用いた広告で認知を増やしたことは興味深かった。
- 8 シェルターメディスンについて、2つの部屋をトンネルで繋げ、排泄場と生活スペースを分けることで感染リスクを減らす工夫がされてことを知ることができた。
- 9 シェルターメディスンが何なのかを知ることができ、どのような問題があるのかが分かりよかったです。
- 10 とてもいい内容すぎて感動しました。
- 11 シェルターメディスンに地域の分析や時間的分析が必要なことが判明した。
- 12 シェルター・メディスンは収容施設内の動物の管理に関するものだと思っていたが、施設外の地域の動物も対象にしているということで、新しい視点を得られた。特に地域の猫の一部を駆除すると真空現象で逆に猫の数が増えてしまうという研究には驚かされた。
- 13 問題や問題解決のヒントが分かりやすく良かったです。（田中先生）
- 14 シェルターにおいても通常の診療と同じエビデンスの大切さを再認識することができた。（田中先生）
- 15 元々愛護に興味があり、改めて殺処分のことを認識することができた。（田中先生）
- 16 シェルターメディスン分かりやすかった。
- 17 ケイト先生のシェルターメディスン黎明期の話が非常に興味深かった。地域猫を捕獲すると地域猫の数が増えるという例も学びが多かった。
- 18 シェルターメディスンの定義、役割を具体的に知ることができた。とてもよかった。（ケイト先生）
- 19 シェルターメディスンとい考え方を初めて知った。ゲージの大きさでストレスが変わることに驚いた。わかりやすい内容だった。（ケイト先生）
- 20 シェルターメディスンの具体的な方法についてももう少し詳しく聞きたかった。
- 21 現在までに至る過程に大変な苦労や葛藤があったことがよくわかった。

- 22 今大学で動物について学んでいますが、保護動物に関心があるので今回の講演で詳しく現状やそれに対する対策について知れたので良かったです。
- 23 シェルターメディスンに限らず、地域ネコやペット産業、野生動物の飼育などの問題を幅広く取り上げていただき有難うございました。個人やボランティアでは限界があるので、大学や行政などで研究や連携が進んでいるのをうれしく思いました。
- 24 海外の動物処分ことについて詳しく知ることができてよかった。
- 25 タスマニアで猫を駆除した結果、逆に個体数が増えたという情報は興味深かった。TNR活動の推進の一助になるので、ぜひ論文についてもっと詳細に知りたい。
- 26 よく研究していて分かりやすかった。
- 27 問題認識で佐藤先生が分かりやすく、獣医師でない方にも聞いてほしいと思う。
- 28 シェルターメディスンに関する知識を得ることができた。
- 29 動物愛護に関する行政の活動内容を知ることができた。
- 30 殺処分についての問題や現状、パルボウイルスの危険性などについて知ることができた。
- 31 動画で言われていた問題についてよく分かりました。
- 32 TNRをより効果的に実施するヒントを頂いた。(田中先生)
- 33 神奈川県が行った譲渡推進プログラムはかなり効果があったようで参考になりました。
- 34 ケイト・ハーリー氏によるアメリカの知見のご教授も大変参考になりました。
- 35 犬についての講演だと思っていたが猫についてだったので2にチェックを入れた。また、猫についても問題が多くあることが認識できた。
- 36 多くの学びがあった。ケイト先生：収容猫の初期発症原因がヘルペスであることが多いということ。田中先生：今後は犬・猫以外の収容も見込まれることと、その対策が必要であること。佐藤先生：多頭飼育届出制度の届け出先・福祉部署との連携・見守りチームが作られていること。いのちの基金制度、ブランディング戦略、オンライン譲渡会、犬の接し方について職員もトレーナーから受講していること。

質問4. 講演の内容について質問がありましたら、演者名と質問内容をご記入ください。

**Kate Hurley先生**

- 1 シェルターを設置し管理する者（団体）によるシェルターメディスンに基づく適切な管理の必要性、またいわゆる地域猫活動を通してシェルターに入る猫を減らす対策の重要性については理解しました。しかし、行政がそれに直接的に関わっていくのは、立場的にも予算的にも難しいように思います。（もちろん、自治体自身が設置するシェルターの管理には必要な知識であり、適切に措置をする必要はあると思います）アメリカの事例では、シェルターメディスンの啓発や地域猫活動による野良猫の対策について、行政はどのように関わっていたのでしょうか。
- 2 シェルターメディスンは日本ではどこでどのように学べるのでしょうか。また、アメリカに行き、短期でも勉強できるようなプログラムがありますか。よろしくお願いいたします。
- 3 タスマニアで猫を駆除した結果、逆に個体数が増えたという情報は興味深かった。TNR活動の推進の一助になるので、ぜひ論文についてもっと詳細に知りたい。同様の研究は他にないか。
- 4 ケイト・ハーリー先生の英語は聞きやすいのですが言葉が早く、字幕だけでなく解説か日本語読みを入れて頂けると大変助かります。そうしたら、一般の方にも分かりやすいと思います。

**田中亜紀先生**

- 1 日本は野生動物のペット化についての規制がなく、入手しやすい状況とのことだったが、他国での規制状況などについて知りたい。

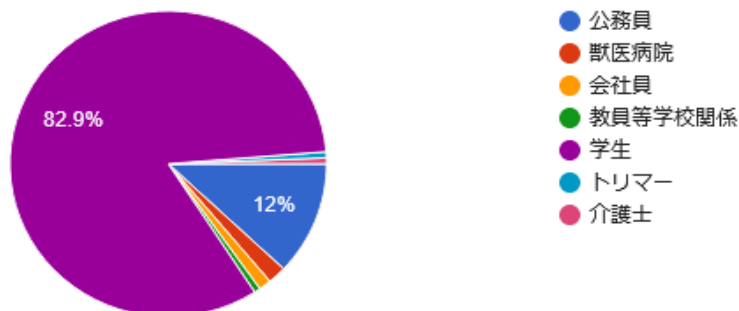
**佐藤裕郁先生**

- 1 多頭飼育者の見守りチームの見守り頻度は、定期訪問なのか。一時減っても再度増やす傾向がある方が多頭飼育者の特徴と考えているが、防げた事例などあれば。
- 2 今後は犬・猫以外も対応することが増えるかもしれない。神奈川県センターでは現段階でどのような取り組みがされているかや、新しくなった施設の中で対応できる部屋の有無。

質問5. 貴方のご職業をお聞きます。

グラフをコピー

158件の回答



【回答者の内訳】

学生:131名 会社員:2名 獣医病院:3名 公務員:19名 教員等学校関係:1名 介護士:1名 トリマー:1名

質問6. シンポジウムへのご意見、ご感想、今後取り上げて欲しいテーマなどがありましたらご記入ください。

- 1 動物収容施設に勤務する獣医師の臨床分野の優先すべきスキルに関して
- 2 信頼できるボランティア団体の探し方
- 3 田中亜紀先生が言及されていた、愛護団体による犬猫の引き取り問題について
- 4 獣医には様々な進路があるので、それぞれの専門家の話を聞きたい。
- 5 今後の進路や自分がどの分野があっているかなどの助けがほしい。
- 6 各症例や、原因別の具体的な予防、発症時の対策等
- 7 順化トレーニングの具体的な方法
- 8 多頭飼育を1番に考えるなら、全国オンラインで飼育状況で空きが有る所を教えてもらえるフォーラムの開催などして欲しいし、ケイト・ハーリー先生の話をもう一通を入れて聞きたい。
- 9 動物福祉というと概念的な捉え方がされがちであるが、疫学をもちいてエビデンスが構築されており、このことはもっと喧伝されるべきである。
- 10 犬・猫以外の事例、動物虐待案件への対応